

進んで学び、意欲的に表現する子どもの育成

～新聞を活用した伝え合い・学び合い～

上越市立南本町小学校

1 NIE 実践のねらい

当校の児童は、自尊感情が低く、学習に対して意欲的に取り組む姿勢が乏しいことが大きな課題である。そこで、学校の重点目標に「一人一人の笑顔づくり～自尊感情の育成～」を掲げている。自尊感情とは、「いろいろな欠点を認めつつ、自分をかけがえのない存在だと感じ、自信をもって前向きに生きていこうとする気持ち」と捉え、特に仲間とのかかわりによって、「自分は温かく包み込まれている」「友達と心が通じ合っている」「自分はこつこつと努力する人間だ」「今の自分が好きだ」という感情を全教育課程において培っている。

NIE 実践研究指定を受け、新聞を活用し、子ども一人一人の興味や知的好奇心に寄り添った課題や学習過程を設定することで、学習意欲を高めていく。また、仲間と新聞を囲んで活動する共有体験の中で、自尊感情を育成することを目指し、取り組んでいる。

2 実践の概要

(1) 職員研修の充実

- ① 次の2つの目的のため、職員研修を繰り返し行い、6年間を見通したNIEで目指す児童の姿を明らかにし、授業実践に生かすための話し合いを行ってきた。

■ 新聞を活用した学習活動を通して、子どもが意欲的に学ぶ姿を具現する。

■ 新聞を活用した学習活動を通して、子ども同士が意見や考えを伝え合うとともに、さらに考えを深めるようにする。

次のア～エについて、職員研修で得た成果を職員研修広報「NIE だより」にまとめて配付し、授業実践で活用できるように共通理解を図ってきた。

ア 教科書と新聞の教材としての価値の比較

	教科書	新聞
目的	・教科学習の中心的教材として使われる児童生徒用図書	・学習の資料や教材 ・本や雑誌のように読み楽しむもの ・知らせる目的で作成するもの
使う場面	・授業中	・授業中 ・掲示物としてまたは、閲覧目的で常時
読者	・教科書ごとに使用する学年が既に指定されている。	・多様な年齢層・集団
表現	・文字・図表・写真・絵	・文字・図表・写真・絵・広告
内容	・教科の学習すべき内容がまとめられている。 ・体系的に6年間学べるように構成 ・一般的知識が記載。	・時事話題 ・国際・社会・政治・経済・地域・文化・スポーツなど部豊富な分野の内容 ・読者の意見や批評の記載あり
鮮度	・基になる学習指導要領がおよそ10年	・毎日新しい記事

	に1度改訂	
--	-------	--

参考文献：日本 NIE 学会編『情報読解力を育てる NIE ハンドブック』明治図書出版 2008/12/01

イ 6年間を見通した NIE で目指す児童の姿の構想

	低学年	中学年	高学年	特別支援学級
NIE の目標	●新聞に興味をもち、新聞を楽しむ子ども	●新聞を通して、自分の考えを伝える子ども	●新聞を通して、友達と関わりながら考えを深める子ども	●新聞に親しみ、新聞を楽しむ、学ぶ子ども
伝え合い・学び合いの目標	●自分の思いをもてる子ども ●友達の思いを受け止める子ども	●友達の考えを認め合う子ども ●自分の考えを伝えられる子ども	●友達の考えを参考にして、自分の考えを深められる子ども ●自分の考えを明確にして説得力のある表現ができる子ども	●自分の思いをもてる子ども ●友達の思いを聞いて学ぶ子ども
主な学習活動	新聞活用型 ○新聞あそび ・名前の文字探し ・言葉探し ・ビンゴ ○新聞を読み聞かせる ○写真をみて想像を膨らませたり、感想をもったりする	○見出しと写真を読む ○自分が気になる記事の感想を書く	○新聞から必要な情報を読み取る（得る） ○記事を読み、自分の意見を書く ○記事を元に友達と関わりながら意見を交換する	○新聞あそび ○新聞に親しむ ○お気に入りの記事をストックする ○写真を使って見出しクイズ・インタビューゲーム
	新聞作成型 ○壁新聞 ○生活科や国語科と関連させた新聞作り ・先生新聞 ・ヤギ新聞 ・アサガオ新聞 ・野菜新聞 ・ヤマタノオロチ新聞 ・町たんけん新聞	○学級新聞 ○学習のまとめ新聞（総合関連新聞、見学新聞、観察新聞など） ○四コマ漫画作り（吹き出し・並び替え）	○学級新聞 ○学校新聞（委員会や行事など） ○学習のまとめ新聞（総合関連新聞、見学新聞、観察新聞など）	○行事新聞 ○スクラップ新聞 ○壁新聞 ○お気に入りの記事紹介 ○季節新聞づくり ○お世話になった先生への近況報告新聞
	新聞比較型 ○同じ内容の記事の写真を比べる	○1面の記事を見比べる ○興味ある新聞記事を読み比べる	○特定の視点を定め、見出しや記事を読み比べる ○コラムや投稿欄を読み比べる	○同じ内容の記事の写真を比べる

ウ 新聞活用のメリットの明確化

教材としてのメリット	教材としてのデメリット
・ 情報が新しい。 ・ 事実が詰め込まれている。 ・ 複数の新聞の記事を比較できる。 ・ スクラップにしておけることができる。 ・ 読者の意見・批判も知ることができる。	・ 習っていない読み方の漢字が多い。 ・ 小学生には文章や言葉の言い回しが難しい。 ・ 購読していない家庭が半数あるので、新聞が身近なものではない。 ・ 殺人・戦争など社会の影の部分を取り上げられることが多い。 ・ 広告欄で児童に見てほしくない過激なものや性的なものがある。

エ 新聞活用の意義

新聞活用の意義は大きく 5 つある。

- A 身近な地域の話題は、子どもにとって興味がわく。また、教科書の教材が、子どもの実生活から遠くにあるものの時、教材と子どもの生活をつなぐために新聞を活用することができ、意欲的に学ぶことができる。
- B 新聞を読むことで子どもの疑問が解決されたり、自分の考えと現実との矛盾に気づいたりできる。
- C 多くの情報が載っている新聞を読むことで、情報を探す力や、子どもが日頃意識しない世界ともつながり、自分では思いつかないアイデアを、新聞記事から見つけることができた。
- D 新聞作成型の時は、グループ活動での協働場面が意図的に作ることができる。特別な支援が必要な児童であっても、グループで新聞作成に取り組んだり、「ジグソー学習」を取り入れて助け合う場面が増えたりすることで、自分でできることや役割が増え、交流学級での所属意識が高まった。

② 外部講師による講座を開催し、NIE に対する見聞を広めた活動

ア 新潟日報社 読者局 佐藤雄太様による講演 (2 年次)

小学校での教職経験のある現役新聞記者の佐藤様から、NIE 実践の紹介をしていただいた。新聞記事の蓄積方法や、子どもに興味を持たせる新聞記事の授業場面での活用例などを教えていただいた。

イ 上越教育大学 准教授 中平一義様による講座 (2 年次)

「まわし読み新聞」の学習効果を講話いただいた後に、まわし読み新聞作成のワークショップを行った。まわし読み新聞が「主体的な学び」に対してどのような効果があるのか、当校の研究主題に関連させアドバイスしていただいた。

ウ NIE アドバイザー 川合紀子様による講座 (1 年次)

初めて NIE に取り組む職員のため、糸魚川東小学校の実践をもとに、新聞はどのような場面で活用できるのか、事例を元にご講話いただいた。

エ 新潟日報社・読者局次長兼ふれあい事業部長 花沢 康雄 (1 年次)

おもしろしんぶん館への見学と合わせて、館内にてご講演いただいた。読書週間や新聞閲覧の効果をお話いただいた。デジタル情報機器と新聞を比較してメリット・デメリットを考えることができる内容であった。

オ 新潟日報社 読者局 吉岡和彦様 (1 年次)

新聞の読み方講座として、新聞の斜め読み方法や、新聞紙の構造について学んだ。2 年間の NIE のスタートとして、新聞を教材化することにハードルがある人が、取り組みやすいと感ずることができる講座であった。

(2) 学校教育での新聞活用の充実

① 環境整備

ア 児童玄関に NIE コーナーを設置

児童玄関に新聞閲覧のコーナーを設けた。また、校内の先生、事務職員、栄養教諭、養護教諭、大学の学校支援プロジェクトの学生がそれぞれ自分の興味あ

る新聞を切り抜いて新聞記事ポスターを作成し、児童玄関に掲示する活動を継続している。

イ 学級壁新聞コンテストの実施

掲示委員会の児童が学級対抗の壁新聞コンテストを実施した。写真やイラストを多く入れ、生活科の活動などの紹介も兼ねた学級紹介新聞を作成した。より磨き上げた記事にして応募した学級もあった。後日、全校集会で、掲示委員会の児童が全学級に賞状を授与し互いの新聞のよいところを称えあった。



ウ 児童による新聞の読み聞かせ

昼の放送を利用して、放送委員会の児童が「毎日小学生新聞」から、その日の新聞記事を全校児童に読み聞かせている。「新聞コーナー」は昼の放送の定番となり、全校児童が食事をしながら耳を傾けている。読み聞かせる新聞記事は、その日の放送担当児童が毎朝新聞を読み、自分が興味ある記事や、皆に知らせたい記事を選んでいる。

エ 親子で新聞に触れ合う週間の実施

夏休みには、親子で取り組む新聞記事感想文コンクールや、新聞スクラップコンテストへの参加を呼び掛けた。夏休みの出来事を新聞にまとめることを課題とした学年もあった。秋の読書週間に合わせ、親子で新聞を読むことを推奨する期間を設けた。「親子で語り合う時間が増えた。久しぶりに新聞を読んで新鮮だった。」と保護者から好意的な感想が多数寄せられた。

オ 全校 NIE タイムの実施

全校で毎週 1 回、朝読書の時間を「NIE タイム」と名付け、新聞記事を読んで考えたり、感想を書いたりする時間を継続して設けている。毎週水曜日にメール配信される読売ワークシート通信を使ったり、四コマ漫画を使ったりして、新聞記事から時事話題に触れる時間となっている。読売ワークシート通信



(<http://kyoiku.yomiuri.co.jp/torikumi/worksheet/>)

② 授業実践一覧

平成 29 年度は、学年で 1 名ずつ授業を公開した。今年度は、全教員が NIE の授業を公開している。公開授業での新聞の活用方法は様々で、授業後の協議会では、新聞活用の効果や、新聞活用による児童の意欲の高まりなどについて、熱心な議論がなされた。

ア 平成 29 年度 南本町小学校 NIE 実践集録紹介授業一覧

学級	教科	単元名	新聞活用の型
1 年 1 組	国語科	さがそう！つかおう！ひらがな かたかな	活用型
2 年 1 組	学級活動	2 学期の思い出新聞を作ろう	作成型
2 年 2 組	学級活動	新聞に親しもう	活用型
3 年 1 組	社会科	見てきたことを新聞にまとめよう	作成型
4 年 1 組	国語科	見学したことを報告しよう	活用型・作成型
5 年 1 組	国語科	お気に入りの新聞記事を選び、自分の感想を書こう	活用型
5 年 2 組	国語科	新聞記事から考えよう	比較型
5 年 1 組	外国語科	アルパカかあさんのモフモフ English	活用型
6 年 1 組	社会科	新聞を読んで戦争中と戦後を考えよう	活用型
6 年 2 組	理科	科学研究に取り組もう	活用型
6 年 2 組	家庭科	洗濯をしよう	活用型
6 年 2 組	社会科	NIE タイム「伝えたいことは」	活用型
特支 1 組	生活単元	お世話になった先生に新聞を送ろう	作成型
特支 2 組	国語科	三字以上の熟語の構成	活用型
発達通級	自立活動	みんなも自分も楽しもう	新聞活用型

イ 平成 30 年度 南本町小学校 NIE 実践集録紹介授業一覧

学級	教科	単元名	NIE の類型
1 年 1 組	道徳	生きものにやさしく	活用型
1 年 2 組	国語	かたかなをみつけましょう	活用型
2 年 1 組	国語	見つけよう、知らせよう 南本町のすてきなところ	作成型
3 年 1 組	国語	見てきたことを新聞にまとめよう	作成型
3 年 2 組	国語	国語辞典の使い方	活用型
4 年 1 組	学級活動	見学したことを報告しよう～青田川新聞をつくろう～	活用型
5 年 1 組	国語	南本町もりあげ隊 ～地域のためにできること～	活用型
5 年 2 組	総合的な学習の時間	南本町もりあげ隊	活用型
6 年 1 組	国語	読み取り方を考える	活用型
6 年 2 組	理科	変わりつづける大地	活用型
特支 1 組	生活単元学習	新聞記事クイズを作ろう	活用型
特支 2 組	国語	説明文 にせてだます	活用型
発達通級教室	国語	三字以上の熟語の構成	活用型

3 実践紹介

(1) 新聞活用型

① 国語 3年「国語辞典の使い方」

新聞記事から、調べたい言葉を抜き出して、調べる活動をした。各自で調べた後、グループで調べた語句について紹介し合い、調べていない語句を付け足したり、調べた意味が正しいか話し合ったりして確かめた。意欲的に調べた一方で、抜き出した言葉を辞典で調べるために言い切りの形にすることが難しかった。



② 理科 6年「変わり続ける大地」

新潟県中越沖地震と、大阪北部地震の新聞記事を見比べて、どのような被災状況だったか調べ、地震に対する備えをについて考える活動である。地震に対しての備えは、自分でできる備えと、地域や社会で取り組むものとに分けて考えることができた。



③ 外国語活動 5年「アルパカかあさんのモフモフ English を読もう」

Reading や Writing の言語活動として、児童の様子や実態に合わせて、英語のフレーズを聞いたり発音したりする機会を作った。例文をもとに、自分のことについても表現しようとする意欲的な姿が見られた。



④ 総合的な学習の時間 5年「南本町もりあげ隊 ～地域のためにできること～」

南本町の地域活性化の活動を考えるために、他地域や他校の事例を新聞記事で読み、自分たちの計画を具体化していく活動を行った。新聞記事で紹介された事例をもとに、自分たちの考えた地域活性化の活動が実現可能かどうかを真剣に考える姿が見られた。



(2) 新聞作成型

① 生活科 2年「見つけよう！知らせよう！南本町のすてきなところ」

町探検で発見した地域のよいところを新聞形式にまとめ、写真と文で発信していく活動を展開した。児童は新聞記者になりきって町探検で、インタビューを行った。2年生の発達段階を踏まえ、新聞記事に書き下ろすのではなく、児童が撮影した写真に見出しとコメントを付ける形式の新聞にしたので、子ども同士のグループ活動の中で、互いに助け合いながら新聞を作成することができた。



② 国語科 4年「見学したことを報告しよう ～青田川新聞を作ろう～」

青田川について総合的な学習の時間に学んだことを新聞紙面1枚にまとめることで、新聞には、読み手がいるということを意識し、読み手に分かりやすい文章、伝えたい内容が表現されている文章を意識して、新聞作成を行った。活動したこと、インタビューや調べたことをまとめる手段の一つとして、新聞形式でまとめるよさを実感した授業であった。



(3) 新聞比較型

① 国語科 5年 「メディアリテラシー入門」

2018年1月の豪雪で立ち往生した電車の新聞記事を複数の新聞記事で読み比べた。全国紙と地方紙で掲載されている情報量の違いや写真の枚数などを比べ、どんな情報をどんな意図で提供しているかを考える学習をした。

豪雪の状況は連日テレビや新聞で報道されている時期だったので、「あ、このニュース知っている。」「15時間の立往生は辛い。」など身近な出来事として捉え真剣に情報を見比べることができた。



4 成果

(1) 新聞活用のもたらした効果

① 学習意欲の高まり

新聞を活用した授業では、子どもの集中力が上がっていると担任は感じている。新聞記事を学習の動機付けや補足資料として活用すると、児童が「知っている」情報であることが多い。このような新聞活用が学習意欲を高める理由は次の3つである。

○既に「知っている」事実は、じっくり思考しないと答えに辿りつかない算数の発展的学習と違い、授業の最初から既知であり、自信をもって学習に取り組むことができ、学習意欲を高めることができた。

○新聞記事は身の回りで実際に起きている事なので、自分事として意識できる。記事を用いた「問い」はそのまま自分事となる。また、記事の内容は、身近に感じ、記事に対して自分の意見や感想をもつことが容易になり、学習意欲を高めることができた。

○「知っている」安心感に囲まれた教室の雰囲気には緊張感はなく、和やかな雰囲気になる傾向があり、学習意欲を高めることができた。

② 主体的な学びの姿の実現

新聞を活用した授業では、児童の主体的な学びの姿が見られるようになった。その理由は次の2点である。

○新聞を活用した授業は、教師の一方的な指示が減り、児童が（友達・新聞・問い・体験活動）と自ら関わって学ぶ姿が見られた。教師が児童に対して語り過ぎることを防ぐ効果があり、主体的に学ぶ環境が整う。

○新聞とじっくりと対話すると、一つの事象についていくつもの方法で情報を発信している。例えば、見出し、小見出し、リード文、写真、地図、記事本文などである。児童は必要に応じ、様々な情報を選び、情報との対話を繰り返すことができるので主体的な学びが成立しやすい。

(2) グループ活動のもたらした効果

① 協働体験による自尊感情の育成

ペア学習やグループ活動における友達同士の対話が増えた。ペアやグループの仲間同士が真剣に考える姿、仲間同士アドバイスし合う姿、新聞記事を一つの成功事例や根拠として捉え、意見を組み立てる姿は、友達との協働により生まれた。さらに、友達と学び合い、達成した喜びを共有したり、困難を解決し互いの存在に信頼を寄せあったりする中で、自尊感情が高まり始めた。



2年生が作成した新聞

3年生が作成した新聞

② 学び深まる活動の充実

【新聞比較型】の学習では、情報を多面的に読み深める力を養うことができた。

また、【新聞活用型】の学習では、新聞記事の地域活性化の話題を成功事例として読み解き、自分たちの地域で生かすアイデアとして吸収していた。また、地震の記事から被害状況を把握し、地震に対する備えを考えるなど、資料を深く読み解く力を付けた。



【新聞作成型】の活動では、グループの仲間と協力してインタビュー活動をして新聞作成を楽しむ姿や、友達のアイデアをもらいながら、新聞記事を書き足し、自分の思いを更に広げている児童の姿が見られた。子どもの体験や気づきを軸とした学びに広がりや深まりが出てきた。

③ 教師の指導観の変化

新聞記事を教材化する過程で子どもにどのように問いに出会わせるか、子どもがどのように、解決へ向かっていくかを想像するようになり、授業で子どもの思考過程を余裕をもって見守ることができた。

また、提示した新聞記事と向き合う児童の様子を目の当たりにした教師は、「教える」教師から、児童と「共に学ぶ」教師へと変化した。

更には、生活科や総合的な学習の時間の体験をまとめたり発信したりする新聞作成の学習を通し、「教師による授業のまとめ」をしたがる教師から、「子どもの創造や創意に学びの価値を見出す」教師へと変化するなどの成果を得た。